

(8) 読書通帳（よみきかせ手帳）の作成について

よみきかせ手帳 実施要項

1. 目的 乳幼児への読み聞かせを推進

乳幼児への読み聞かせは、情操教育として子どもの発達に良い影響を与えると共に、親子で同じ時を過ごす、同じ作品を楽しむことによって親子の絆を深めることにもつながる。

当該事業は、この乳幼児への読み聞かせを推進することを目的とする。

2. 名称 よみきかせ手帳

名称については、「読書手帳」が用いられる例が多いが、今回の本市の未就学児対象という事を考慮すると、子どもが一人で読書するのではなく保護者からの読み聞かせが主であると想定し、「よみきかせ手帳」とする。なお、「読書通帳」という名称は、民間企業のシステム名の登録商標である。

3. 対象 未就学児

本市の各小学校では、読書カード等の読書手帳と同内容の事業を既に導入済みである。そのため蕨市立図書館が実施する読書手帳は、未就学児を対象とすることで小学校の事業との重複を回避しつつ、ブックスタート事業との相乗効果により乳幼児への読み聞かせを後押しする。

4. 交付方法 ブックスタート実施時に交付

現在、4か月児健診時に、絵本の読み聞かせを実際に見てもらいながら、お薦めの絵本を1冊贈呈し、読み聞かせの手引きと蕨市推奨図書リストを配布するブックスタート事業を実施しているが、その際に「よみきかせ手帳」も合わせて交付する。

希望する方に図書館カウンターでも配布する。

また、PDF をホームページに掲載し、ダウンロードして自分で作成できるようにする。

5. 推進策 センスの良い手帳、達成記念品

配布対象の4か月児は、昼夜問わず続く睡眠、おむつ替え、授乳のサイクルの中で、保護者は身体的・精神的に厳しい時期であるため、手帳をただ配布するだけではまったく活用されないと危惧する。

そこで、乳幼児の保護者である主に20～30代が利用したいと思えるくらいのセンスの良い手帳とするため、デザインの段階から専門の業者に依頼する。さらに、手帳への記入が全て達成した際には記念品が貰える形にすることで継続意欲を引き出す。

現在、記念品としては、オリジナル缶バッジを検討している。

6. 予算 399,300 円

よみきかせ手帳	196,075 円(1,800 冊・A5、28 ページ、表紙 4 色 PP 加工)
缶バッジ	146,520 円(1,800 個・38mm、安全ピン)
達成記念ゴム印	5,500 円(1 個)
総額	348,095 円 ※上記 3 点は全てデザイン料を含む

7. 達成後の手帳

達成された手帳を後に子どもに贈ることによって、親から愛情をどれだけ受けてきたのかが実感できる、尊い思い出の品となる。

子どもに贈るタイミングとしては、例えば小学校入学時なら、『あなたはこれまでこれだけの本を読んで大きくなってきた』というメッセージになり、親の愛情を実感しつつ子どもの自信につながる。さらに、これからは小学校の読書記録で読書を続けていこうという方向への働きかけにもなる。

また、成年式の際なら、頑張ってきた時代を親子で振り返ったり、将来子どもができたときには、今度は自分が親として読み聞かせをしてあげようというきっかけになることも考えられる。

【参考】市内7小学校の現状の実施状況

No	小学校名	記録方法
1	東小	1～3年生:冊数、4～6年生:ページ数
2	西小	全学年:冊数
3	南小	1～3年生:冊数、4～6年生:ページ数
4	北小	1～4年生:冊数、5～6年生:ページ数
5	中央小	1～3年生:冊数、4～6年生:ページ数
6	中央東小	1～3年生:冊数、4～6年生:ページ数 ※詳細を下記に記載
7	塚越小	全学年:「読書登山」にてページ数で記録 ※詳細を下記に記載

※中央東小学校の取り組み

「年間50冊、5,000ページ読書の推進」の目標を掲げ、本を読んだ冊数(1～3年生)やページ数(4～6年生)を読書カードへ記録し、読書への意欲の向上、読書の習慣化を図っている。達成者には、学期ごとに校長から賞状が贈られる。読書カードは音読カードと合わせて管理することを学校全体で統一し、保護者への啓発もあわせて行うことで、家庭でも読書を推進できるようにしている。

※塚越小学校の取り組み

読書量を冊数やページ数で記録させ、読書への意欲向上、読書の習慣化をねらった「読書登山」エクセルを導入。1ページを1mで換算し、読んだページ数の累計に応じて登山の達成賞が贈られる(例:富士山3,776m)。全校児童に記録用紙「読書登山チャレンジカード」を配付し、1年間で「塚越山10,000m」の達成を目標に取り組ませている。